

顔接近危険予知 (KKY)

職員・入所者間で接近が想定される場面

距離の近さ

+

時間の長さ

+

声・呼気



口腔ケア



清拭

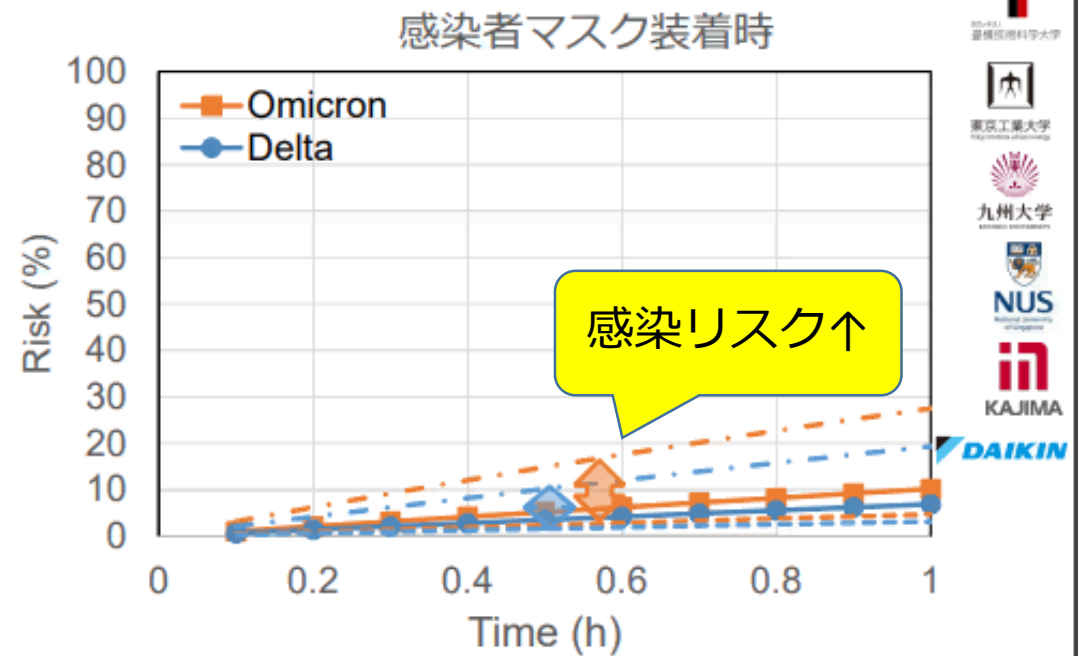
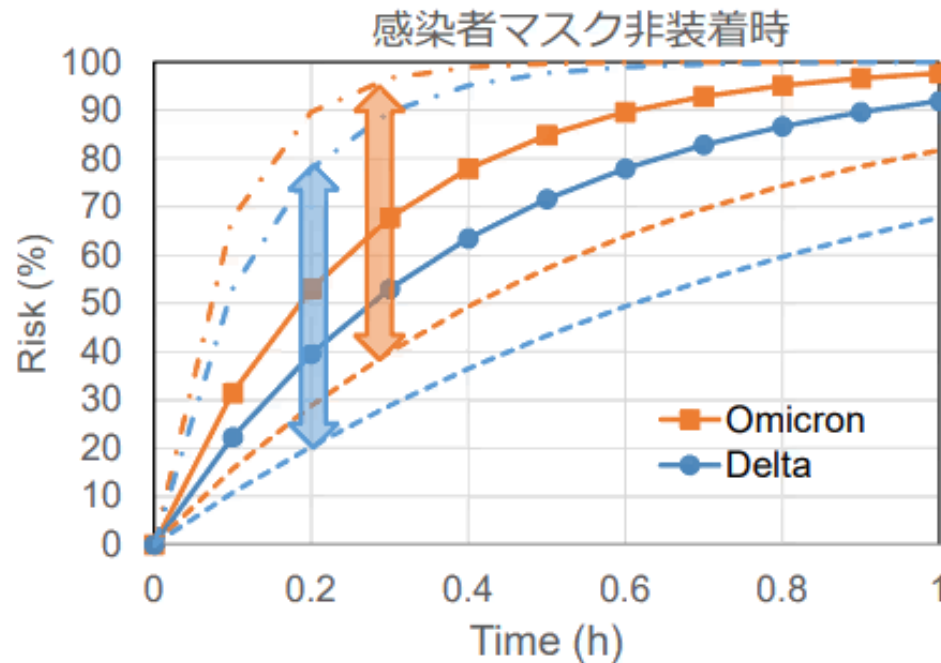


食事介助

感染させる危険

15分を越えてしゃべっている感染者と対面した時の感染リスク

- 1m（マスク非装着）及び0.5m（マスク装着）の距離での感染確率と時間の関係



提供：理研・神戸大，協力：豊橋技科大・大王製紙・京工繊大・東工大・九大

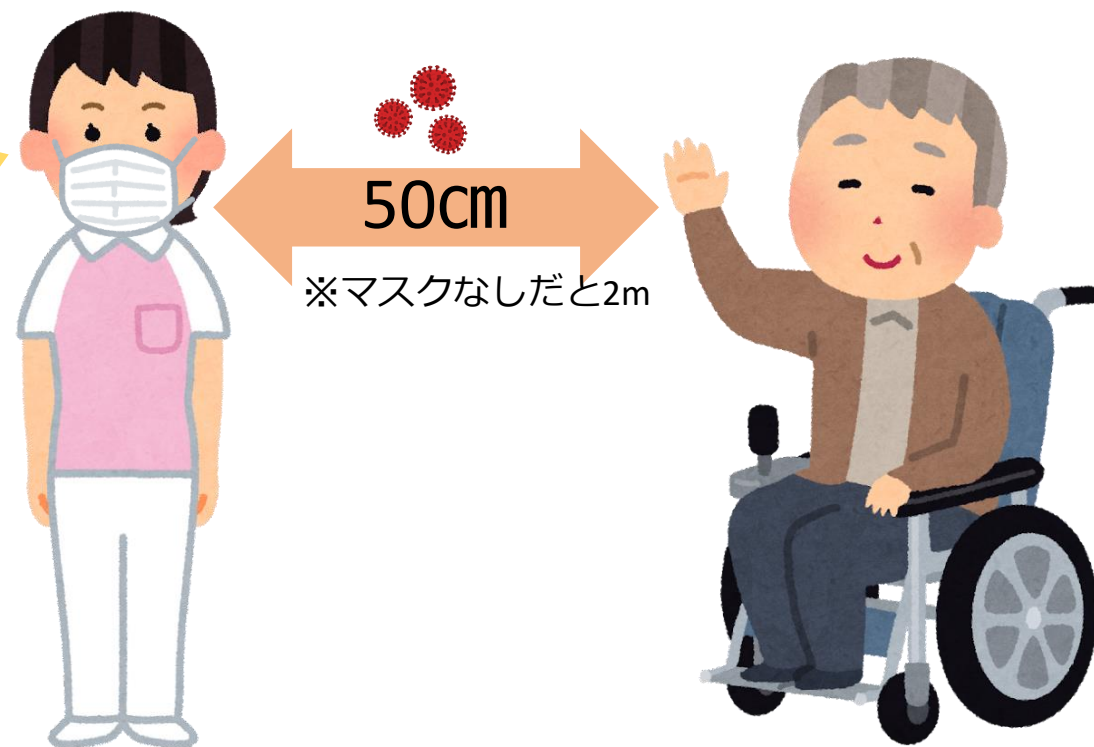
危険な場面を予知する力

利用者の顔の50cm（マスクなしだと2m）以内に職員の顔が接近

「声を出す」「咳をする」「息があがる」行為が危険性を高める

ケアを行う前にリスクを確認！

- 50cm以内で行うケアか？
- 感染対策はできているか？
- 飛沫を浴びないケアを行うには？



顔接近危険予知活動（KKY）とは

- 自分の腕のどのあたりまでが50cmかを認識する
- 各勤務帯で何回ぐらい利用者の50cm以内に顔が近づくかを数える

	1分以内	1～5分 会話なし	1～5分 会話あり	5分以上
○月○日	正	正	正正	T

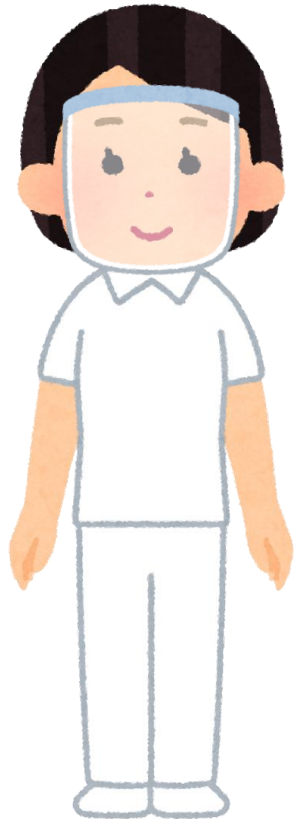
一度、記録をしてみることで、**リスクが見える化（視覚化）** できる
どの場面でリスクが高いと感じたか、職員同士で**情報交換**をしてみましよう

1 m以内、特に50cm以内に近寄ったときに「今は危険である」ことを認識

- ケアに応じた感染対策の選択
⇒ MMC（マスク漏れチェック）やフェイスシールドの着用
- 声掛けに変わる仕草や眼差しの工夫
⇒ ボディータッチや微笑み
- 同僚が行っているケアの振り返り
⇒ リスク評価を職場全体で行う **体制づくり**

(おまけ) フェイスシールドの着脱

近距離での感染対策には、フェイスシールド着用も有効です。
正しく着脱をすることで、自身への感染リスク（飛沫）も軽減できます。



着用

目・鼻・口が完全に覆われるように着用しましょう。

脱衣

外側表面は汚染されているため、ゴムひもやフレーム部分をつまんで外し、そのまま廃棄するか所定の位置に戻します。

使用後は2~3日間放置するか、アルコールでシールド面を消毒しましょう。